

果樹試験場の取り組み 病害虫研究担当

病害虫研究担当では、本県の主要な果樹であるカンキツ、ナシおよびブドウ等に被害をもたらす病害虫について、その生態、発生予察技術および防除技術の開発を行っています。特に、防除技術の開発については、効果はもちろん、「環境に優しく」、「簡便・安価」をコンセプトに取り組んでいます。

1. 果樹病害虫発生予察事業

果樹病害虫の発生予察を行うために、県農業技術防除センターと連携して、巡回調査や各種トラップ調査等を行っています。防除センターが調査結果を基に予察情報や対策資料等を作成しており、果樹試験場はその作成に協力しています。



ミカンハダニ雌成虫



カンキツ黒点病



ナシ黒星病

2. 低毒性農薬の探索に関する試験

本県で問題となる病害虫を中心に新規化合物、天敵昆虫および天敵微生物の農薬登録に向けた防除試験を実施しています。また、既存の薬剤についても、九州・本県での効果的・効率的な利用技術について検討しています。



チュウゴクナシキジラミ成虫

3. 果樹における難防除および新奇病害虫の迅速な防除技術の確立

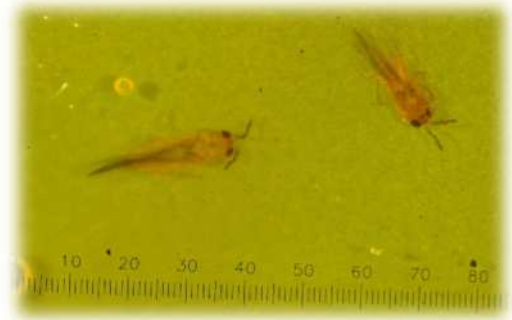
防除が困難な病害虫や新たに県内に侵入し被害が問題となっている病害虫について、その生態、発生予察および防除技術等について検討しています。現在、佐賀果試35号のカンキツかいよう病、モモ等のカイガラムシ類およびブドウの晩腐病等を対象に取り組んでいます。



ウメシロカイガラムシ

4. 発生パターンの変化や使用可能な農薬の減少により防除が困難となっている作物に対する防除体系の確立

地球の温暖化等により発生の前進化や発生回数が多くなった病害虫や登録農薬の減少にともない有効な防除手段が限られた農作物を対象に新たな防除体系を検討しています。現在、カンキツのチャノキイロアザミウマ、カンキツ黒点病および果実腐敗を対象に取り組んでいます。



チャノキイロアザミウマ

5. 果樹等の幼木期における安定生産技術の開発

ナシのさび色胴枯病について、先述の落葉果樹研究担当、さらに西松浦農業振興センターと連携して、本病の生態と被害実態の解明および対策技術について検討しています。